

# 東方キリスト教世界研究

---

## レビュー論文

- ・ヨーロッパの地方自治に関する類型論の展開：西欧から中東欧まで  
・・・・・・・・・・・・・・・・須川忠輝 (3)

## 翻訳

- ・ニコス・カザンザキス (1999) 『ロシア文学史』アテネ ・・・・・・・・福田耕佑 (23)

## 書評

- ・ロルフ・シュトロートマン (2014) 『ヘレニズム帝国における宮廷とエリート：  
アカイメネス朝以後（前 330-30 年）の近東』エディンバラ  
・・・・・・・・・・・・・・・・酒嶋恭平 (61)
- ・リノス・ベナキス (2001) 『後ビザンツ哲学 17-19 世紀 諸原典の研究』アテネ  
・・・・・・・・・・・・・・・・福田耕佑 (69)

## 講座案内

- ・「シリア語（入門）」「西アジア古代帝国の盛衰」「天文学と占星術の始まり」  
・・・・・・・・・・・・・・・・三津間康幸 (77)

---

2018 年 5 月

東方キリスト教圏研究会

## 投稿規程

### 『東方キリスト教世界研究』投稿規程(2017.10.16 改訂)

#### 1. 概要

『東方キリスト教世界研究』(以下,本誌)は, 東方キリスト教が信仰される地域の文化・歴史・言語・社会・文学などの諸事象についての論考を幅広く取り扱う査読制学術雑誌です。

#### 2. 投稿資格

本誌はどなたでも投稿できます。投稿をご希望の方は, なるべく事前に東方キリスト教圏研究会事務局 [eoas.office@gmail.com](mailto:eoas.office@gmail.com) までご連絡ください。

#### 3. 執筆言語

執筆言語は日本語とし, 表題の翻訳および要旨を任意の言語で添えるものとします。

#### 4. 原稿の種類

本誌は以下の種類の原稿を受け付けます。

論文: 16,000字前後。

書評: 8,000字前後。

文献翻訳: 8,000字前後。

研究動向: 8,000字前後。

#### 5. 書式

原稿は横書きとします。

注,文献等, 詳細規定は次ページの**執筆要領**をご参照ください。

翻字は, PDFに出力できる範囲で原語を表記できるのならば特に行う必要はありません。

#### 6. 査読

本誌に投稿された原稿は, 2名以上の匿名の査読者による査読の上で採否を決定します。また, 投稿された原稿の書き直しをお願いすることがあります。

#### 7. 投稿論文

本誌に投稿され, 査読を経て掲載された原稿につきましては, 雑誌形式のみではなく, 京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)を通して, インターネット上に公開されます。

#### 8. 著作権

最終的な著作権は東方キリスト教圏研究会に帰属します。著者本人が自らの著書等に本誌に掲載された論文等を転載することは妨げないものとしますが, 7.を許諾したものと見なします。

## 執筆要領

### 『東方キリスト教世界研究』執筆要領(2017.5.1 改訂)

1. 1行あたりの字数は43字、行数は1ページあたり35行としてください。
2. 使用するフォントは次の通りとします。和文はMS明朝、欧文は原則としてTimes New Romanとし、ともに10.5ポイントとしてください。またその他の文字に関しては原稿の当該箇所にフォント名を赤字で記してください。
3. 読点は「,」、句点は「。」を用いてください。丸括弧に関しては、和文は全角括弧、欧文は半角スペース+半角括弧に統一し、鍵括弧は全角括弧を用いてください。なおこれらの記号に関しては、執筆者の側でも入念にご確認ください。
4. 章,節,項を区切るための各種記号については,執筆者に一任いたします。
5. 西暦は半角英数の算用数字を用い,イスラーム暦や元号等は西暦も併記してください。
6. 引用文を示す際は上下を二行ずつ空け,全体を二字下げてください。
7. 参考文献は,原稿末に一覧を付してください。参考文献の記載方法は,①同一著者同一年の文献については a, b, c などの添付記号を付すこと,②言語によって巻号,頁数,出版形態などの一般的な表示法が異なる場合もあるため,各言語に即した方法に則ることも可,少なくとも言語毎に一貫性をもたせること,といたします。以下に具体例を記します。

〔単行本・和文〕

大森正樹 (2000) 『エネルギーと光の神学 グレゴリオス・パラマス研究』東京: 創文社  
(※ただし、和文に関しては出版地の記載は任意とします)

〔単行本・欧文〕

SMITH, Anthony D. (1986) *The Ethnic Origins of Nations*, Oxford: Blackwell Publishers.

〔雑誌論文・和文〕

村田奈々子 (2013) 「近代ギリシアにおけるヘレニズム概念について」『言語と文化』10: 181-205,  
法政大学言語・文化研究センター

〔雑誌論文・欧文〕

KANTERAKI, Thalia (2012) “Les études Bergsonniennes en Grèce aujourd’hui,” *Annal Bergsonnines V*

## 執筆要領

*Bergson et la Politique: De Jaurès à Aujourd'hui*, 5: 501-509, Paris: Press universitaires de France.

8. インターネットサイトを参考にする場合は、以下の要領にて行ってください。

(a) 脚注に記載する場合.....<http://eoasoffice.webcrow.jp> (2017年3月20日最終閲覧)とすること。

(b) 参考文献にも記載する場合.....「参考 URL」などのタイトルを付けた上で、(a)の方式にて記述すること。

9. 本文または注における参考文献への言及は以下の要領に準じて行います。史資料類については執筆者任意の略号を利用しても構いませんが、原稿内で統一した方式を用いてください。また、文献の頁数や葉数などの出典箇所を下記の例のように明示してください。なお、下記の 193, 43-46, 503 は頁数です。

すでに村田 (2013: 193) が論じているように.....

Smith (1986: 43-46) は、「.....」と述べる。

.....とする見解を示した (Kanteraki 2012: 503) 。

10. 注については、原則脚注形式とするので、次の要領で作成してください。

(a) 「MSWord」の脚注機能を利用すること。その場合、脚注機能の各種設定はデフォルトのままとすること。

(b) 参考文献と頁の引用のためだけの注はつけないこと。その場合は、前項で示したように本文に挿入すること。

(※最終的には編集段階で修正いたします)

11. 図版に関しては、大きめの鮮明なものを提出し、本文中にあらかじめ挿入しておく、もしくは挿入箇所と出来上がりのサイズを赤字で示してください。あるいは、別紙でレイアウトを示すことにより、その代わりとしてもよいとします。

12. 原稿は必ず「MS Word」等のワードファイルを用いてください。また投稿そのものに関しては、原稿を E メール (アドレス: [eoas.office \(A\) gmail.com](mailto:eoas.office(A)gmail.com) [ (A) =@ ]) に添付し、送信する方法のみで受け付けます。図版の送付に関しては、論文そのものに貼り付けて提出する、もしくは画像ファイル (.jpeg 等) の形式で提出してください (容量が大きく E メールに直接添付できない場合は、オンラインのファイルアップロードサービスをご利用ください)。

## 編集委員会

### 編集委員：

中村 唯史  
中澤 拓哉  
早川 尚志  
青山 忠申  
福田 耕佑  
曾我 篤嗣

### 編集事務局：

606-8501  
京都市左京区吉田本町  
京都大学文学部 スラブ語学スラブ文学専修研究室内  
E-mail: eoas.office@gmail.com

## 『東方キリスト教世界研究』 第2号 (2018年)

2018年5月1日発行

2018年5月10日印刷

編集者 東方キリスト教圏研究会

発行所 東方キリスト教圏研究会  
E-mail: eoas.office@gmail.com

印刷所 京緑社  
京都市中京区小結棚町新町通錦小路下る  
フィエルテ四条烏丸シュッド  
E-mail: kyoryokusha@gmail.com

# Journal for Area Studies on Eastern Christianity

May, 2018

## Contents

### Review Article

Typologies of European Local Government Systems: From Western Europe to Central Eastern Europe  
----- Tadateru SUGAWA (3)

### Translation

Καζαντζάκης, Νίκος (1999) *Ιστορία της ρωσικής λογοτεχνίας*, Αθήνα.  
----- Kosuke FUKUDA (23)

### Book Review

STROOTMAN, Rolf (2014) *Courts and Elites in the Hellenistic Empires: the Near East after the Achaemenids, c. 330 to 30 BCE.*, Edinburgh  
----- Kyohei SAKESHIMA (61)

ΜΠΙΕΝΑΚΗΣ, Λίνος (2001) *Μεταβυζαντινή φιλοσοφία 17ος – 19ος αιώνας. Έρευνα στις πηγές*, Αθήνα.  
----- Kosuke FUKUDA (69)

### Introduction of the Courses

“(Introduction to) Syriac”, “The Rise and Fall of the Empires in the Ancient Near East”, and “The Beginning of Astronomy and Astrology”  
----- Yasuyuki MITSUMA (77)

**The Society of Area Studies on Eastern Christianity**  
**Kyoto Japan**